ひまわり通信

いのち輝く子ども

№１５　平成２１年３月１３日
新潟市立東青山小学校
校 長　斎 川　英 子
児童数　608人
TEL(231)9611　fax(231)9623
http://www.niigata-inet.or.jp/higashi/
http://www.niigata-inet.or.jp/higashi/i/（携帯用）
E-mail　h-aoyama@niigata-inet.or.jp

東青山の「強み」は連携力

第２回学校関係者評価委員会を開催しました。年度当初に設定した「学力向上」「豊かな心の育成」「体力向上」それぞれの目標に照らして、１年間の学校の取組を評価していただく会です。

評価委員の皆様方には、学校に対して「批判的な友人関係」を大切にしてご意見をいただきました。さらに今回は、東青山小学校の「強み」を探っていただきました。

以下、学校関係者評価委員会での話し合いの一部と次年度の目標点等をお知らせいたします。

１　学力向上について

【評価】　学力検査 NRT は55.0、４教科のテスト結果は80点以上。ことから、基礎・基本は確実に定着していると言える。しかし、「話し合いや発表がうまくできる」と答える児童は、77.6%とやや低く、依然として課題である。

A：「学習の約束」（基本編、発表・話し合い編）を作成し、全教員が足並みをそろえて取り組んだことはすばらしい。成果も上がった。今後も「東青山小スタンダード」の改善・充実を期待したい。

B：テストは 80 %を超えるが、話し合いは 80 %に２%足りない。来年度は 77.6 %より上を目指すとよい。評価の基準が甘いのか。

学校：今年度は子どもの評価のみであった。来年度は「自分の考えをもつ、自分の考えを表現する」を子どもと教師で評価したい。実態を見るとはきびしいので、子どもの目標は 80 %、教師の目標を 70%としたい。

C：「自分の思いや考えをもつ」の評価は可能か。簡単に評価できる方法の工夫が必要である。

D：アンケート評価をするには設問が大事である。例えば、「○○は、きちんとしているか」の「きちんと」は個人によって受け止め方が違う。また、「教室は楽しく落ち着いた雰囲気で」のように、２つのことが同時に存在するのも答えにくい。

学校：目標に迫るためには、あらかじめ「ゴール」を見せることが必要。学年の発達に応じた目指す子どもの姿を示したい。また、教師と子どもの評価の違いについては、児童アンケート、教師評価の基準をそれぞれ明確にしていきたい。

【次年度の目標】
学び合い、考えを深める子どもの育成
・自分の思いや考えをもつことができる子
・自分の考えを話すことができる子

２　豊かな心の育成について

【評価】「学校が楽しい」「友達と仲良くできる」の児童が90%以上に達し、保護者も満足している。教育相談（ひまわりタイム）や学級満足度調査を踏まえた早期対応の効果が大きい。しかし、規範意識を高めることには課題がある。

E：「人間関係づくり」の成果が上がっている。「よりよい人間関係を築くための」方策として、他にやったことを紹介してほしい。

学校：多方面からの情報収集に力を入れた。今年度は、人間関係づくりの場として、卒業おめでとう集会、校内オリエンテーリングなどでも異学年交流を取り入れた。学級では、グループエンカウンター、ソーシャルスキルトレーニングも行った。

F：あいさつを強調週間以外にも自然とあいさつが出てくるような取組が必要である。例えば、昔からやっているもの中からよいものを見つけて、働き掛けていくことも大切である。

G：規範意識については大人も問題。ほとんどはいい人だが、残りの 1 割程度の人が問題。規範意識の低い人には「よろしくお願いしま

す」だけでは通用しない。成功した例を紹介。町内ではゴミ出しに問題があった。そこで、分別しないまま出されたゴミの写真を掲示することにした。何回かの写真掲示で、ゴミ出しのマナーがよくなった。

H：大人の規範意識については考えることがたくさんある。校門の外でのチラシ配りもそうである。学校では止めることができないか。

学校：規範意識を高めるための町内での取組を紹介していただいた。学校でも、きまりを守らないからといって、叱ったり罰を与えたりするのではなく、きまりを守ると気分がよくなると思わせるようにしていきたい。

【次年度の目標】
よりよい行動をする子どもの育成
・相手のことを考えて行動できる子
・進んであいさつができる子

３　体力の向上について

【評価】児童アンケートで「進んで体を動かしている」83%、「体を動かすことが楽しい」95%と、目標値を達成した。「なかよしタイム」や「5分間の体作り運動」が効果的であった。生活習慣の改善では、「朝食を食べる」は92%、「十分な睡眠時間」は76%であった。成果が上がってきているが、まだ十分とは言えない。

I：「規則正しい生活」は評価項目としてはいいが、現実問題として、夜型の家庭生活などがある。早寝・早起きについて、何らかの働き掛けをしたか。

学校：「元気もりもりカード」で、目標設定を家庭にゆだねた。普段は10:30に寝ているが、目標として10:00に寝るというように。

J：各家庭においてわずかでも向上すればよいという考え方は大変良い。大事な点である。

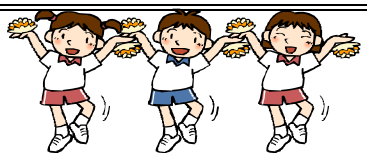
K：家庭で時間を設定するというのはとてもよかった。子どもを早く寝せるために、夕飯の片付けを30分早くした。結局は親の努力でもある。

L：生活習慣が悪いために自分の感情コントロールができない子どもがいる。生活習慣を整えることがすごく大事。

M：「こうやったらよくなった」という各家庭のアイディアをたより等で示すとよい。

学校：「規則正しい生活習慣」を身に付けることは保護者の優先度も高い。更に、家庭と連携して取り組んでいきたい。今後は、個々の家庭のアイディアを全家庭で共有することができるような工夫もしたい。

【次年度の目標】
進んで体をきたえる子どもの育成
・進んで運動に取り組む子
・規則正しい生活習慣を身に付ける子



４　学校の「強み」について

N：この学校の特色として地域の連携がよいと思う。どんどんアピールしてよい。転出入が多いにもかかわらず、これだけ参加があるのは、学校の「強み」としてアピールしてよい。

O：この地域は、オープンマインドで受け入れがよい。閉鎖的でない。

P：ジャスコさんを借りてイベントをしても校区外の人がたくさん来る。

Q：この地域は流出型。新潟では珍しい地域。お盆や正月になると人口が減る都会型。

R：バランスがよい。地元の人だけだと高齢化が進む。転勤族の方によってバランスがよくなっている。

S：子どもたちも転入生の受け入れが上手。

学校：地域と学校パートナーシップ事業を通して、地域の人々の人柄、土壌のよさに改めて感心させられた。次年度も、地域と一体となった教育の推進に努めたい。

平成２１・２２年度
オンリーワンスクール支援事業
実施校に決定しました

オンリーワンスクール支援事業は、新潟市教育ビジョンを踏まえ、保護者や地域と連携し、自校の教育課題を解決するために、支援金を得て実施する事業です。

東青山小学校は、「ふれあい子ども祭り」と「子どもの安全見守り」のプロジェクトを立ち上げて事業を展開する予定です。「連携」の強みを発揮して取り組みたいと思います。

ご支援・ご協力をお願いいたします。